

〈肢体不自由・病弱教育〉

肢体不自由特別支援学校における「キャリア教育」の在り方について

— キャリア発達段階・内容表（準ずる教育課程版）の作成を通して —

沖縄県立鏡が丘特別支援学校 湧 武 真 也

I テーマ設定の理由

平成23年1月、中央教育審議会は答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（以下「中教審答申」とする）をとりまとめた。その中で、「キャリア教育は、キャリアが子ども・若者の発達の段階やその発達の課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、幼児期の教育から高等教育に至るまで体系的に進めることが必要である」とした上で、キャリア教育の意義・効果として三点を挙げている。その一つとして「キャリア教育は、一人一人のキャリア発達や個人としての自立を促す視点から、学校教育を構成していくための理念と方向性を示すものである。各学校がこの視点に立って教育の在り方を幅広く見直すことにより、教職員に教育の理念と進むべき方向が共有されるとともに、教育課程の改善が促進される。」と示している。本県においても、教育施策においてキャリア教育に関する取組について挙げられており、沖縄県教育委員会や沖縄県立総合教育センターから、キャリア教育推進に向けてのプランや実践事例集等が提示され、学校教育での取組が求められている。

肢体不自由・病弱特別支援学校である沖縄県立鏡が丘特別支援学校（以下「本校」とする）は、小学部・中学部・高等部の3学部が設置され、144名（平成25年4月現在）の児童生徒が在籍している。児童生徒個々のニーズに応じた幅広い教育課程を編成し、自立と社会参加を目指した教育を行っている。キャリア教育という観点から、特に本校高等部では、「産業現場等における実習」や「作業学習」、「総合的な学習の時間」等において、進路に関する取組を行っている。しかし、活動に主体性を見出しにくいという課題があり、将来の夢や卒業後の生活について具体的に考えることが難しい生徒は少なくない。さらに、事業所からは、コミュニケーション能力、場に応じたあいさつや返事、言葉遣い、働く意欲、基本的生活習慣の確立等に関して課題があり、全体的に社会経験が不足しているという指摘を受けていることも事実である。その背景には、個々の障害特性のみならず、キャリア教育の観点から見た継続的な指導が不足していた可能性も否定できない。個々の生徒の夢や希望、身のまわりの仕事や社会参加への関心や意欲を育てるためにも、キャリア教育の観点で教育活動全体を見直す必要がある。例えば、卒業後の具体的な生活を見通し、児童生徒が夢や希望を持つことができるように、小学部段階から一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成するために必要な意欲や態度、能力の育成を計画的に行うことが必要である。

そこで本研究では、まず前段階として、児童生徒の発達課題を明らかにし、教職員のキャリア教育に関する共通理解を図り、本校児童生徒の将来像の設定を行う。それらを踏まえた上で、個々のキャリア発達の目安と成り得る「キャリア発達段階・内容表（準ずる教育課程版）」の作成を行う。このことを通じて、小学部・中学部・高等部が連携を意識し、一貫性・系統性のある指導体制の構築、児童生徒の将来を見据えた指導につながり、児童生徒が将来について具体的に考え、夢や希望を持つことができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

児童生徒の発達課題を明らかにし、教職員のキャリア教育に関する共通理解を図りながら、「キャリア発達段階・内容表（準ずる教育課程版）」の作成を行うことで、各発達段階に応じた指導や支援の内容が明確になり、児童生徒の将来を見据えた学習につなげることができるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 キャリア教育について

平成 23 年 1 月、中教審答申では、キャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義している。そして、キャリアを「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」、キャリア発達を「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」としている。

つまりキャリアとは、一人一人が生涯にわたって形づくっていくものであり、家庭や学校、職場、地域等、生活の場すべてにおいて経験する様々な役割を遂行する活動全体のことである。したがって、キャリア教育は生き方に関わるすべての活動を含んでいると考えられる。児童生徒のキャリア発達を支援するためには、発達段階を踏まえながら、自分らしさを把握し、自分の可能性を伸ばそうという意欲や意識を育てること、そして社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育てることが必要である。キャリア教育は、児童生徒が、社会の中でたくさんの人と関わりながら、自分の役割を果たし、自分らしく生きていくために必要な能力や態度を育てるということを期待されている。

2 キャリア教育で育成する能力

平成 23 年 1 月、中教審答申では、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力として「基礎的・汎用的能力」を提示している。これまでキャリア教育の実践の基盤となっていた、キャリア発達にかかわる諸能力、いわゆる「4 領域 8 能力」を継承しつつ、各界で提唱された「人間力」「就職基礎能力」「社会人基礎力」「学士力」などの能力との整合性を図り、社会的・職業的自立に必要な能力として提唱されたものである。図 1 は「4 領域 8 能力」と「基礎的・汎用的能力」の関係を表したものである。図中の実線及び破線は両者の関係性を表しており、破線は関係性が相対的に弱いことを示している。表 1 は「基礎的・汎用的能力」の具体的な内容である。今後は、「基礎的・汎用的能力」の育成を通して、児童生徒一人一人のキャリア発達を促すキャリア教育の推進が求められている。

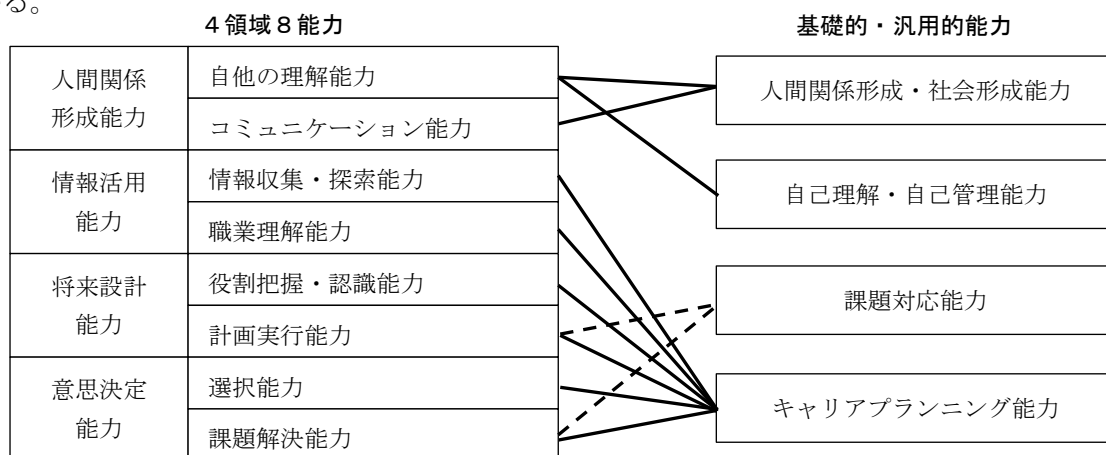


図 1 「4 領域 8 能力」と「基礎的・汎用的能力」の関係イメージ

表 1 基礎的・汎用的能力の具体的な能力

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割と関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

3 特別支援学校におけるキャリア教育について

平成 21 年 3 月に告示された特別支援学校高等部学習指導要領総則に、「職業教育に関して配慮すべき事項」及び「教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項」において「キャリア教育を推進する」という文言が明記された。このことにより、特別支援教育においても、計画的、組織的なキャリア教育の推進が求められている。

特別支援学校においては、児童生徒一人一人の自立や社会参加を目指した取組が行われてきたため、これまでもキャリア教育の意義を踏まえた取組を行ってきたと考えられる。ここで、これまで目指してきた教育をもう一度キャリア教育の観点で見直すことにより、①障害のある人の地域への移行や就労を含めた人生全体への支援の必要性、②小学部・中学部・高等部における一貫性・系統性を踏まえた指導や支援の必要性、③夢や希望をもって主体的に取り組む児童生徒の育成等の重要性がより明確になった。キャリア教育は、一人一人のキャリア発達を目指す取組の積み重ねであり、学校の教育活動全体で実践されるものである。児童生徒、保護者の願いを受け止め、卒業後の自立と社会参加、豊かな生活を送ることができるように、小学部から中学部、中学部から高等部、高等部から社会へというように系統的な指導や支援を行うことが必要不可欠であり、本研究においてもそのことを踏まえた取組を進めていきたい。

4 肢体不自由について

肢体不自由とは、医学的には、「発生原因の如何を問わず、四肢体幹に何らかの永続的な障害があるもの」、心理学・教育学的には「上肢、下肢又は体幹の運動・動作の障害のため、日常生活や学習上の運動・動作の全部又は一部に困難がある状態」をいう。医学的起因は様々であるが、多くの場合は脳性まひをはじめとする脳性疾患によるものである。脳性まひは、脳の病変の部分によって、運動・動作の障害のほか、情報の処理や視知覚・視覚認知等にも影響を与える場合があり、学習する上で様々な困難が生じる場合がある。特に、動かせる部分や範囲が少ない、まひがあつて動かない、意図しない動きが入るといった上肢操作の困難さが、あらゆる学習を制限することになる。このような状態のために、取組に多くの時間を要する。また、運動・動作の制限により、直接的な経験や体験の不足に伴い、社会や自然の事物・事象等に対する理解が十分ではなく、学習内容の理解と定着が図れない場合がある。さらに、周囲の人々から支援を受ける場面が多く、結果として受動的になり、主体性が乏しくなりがちである。

児童生徒一人一人において困難さの状態や程度は異なるため、的確な実態把握に基づいた指導目標及び指導内容の設定と、それらに応じた配慮や工夫を事前に検討しておくことが重要である。学習上の困難を軽減するための手立てを授業実践に取り入れることで、児童生徒が達成感を味わい、自分自身に合った学習方法を理解することができ、意欲的に学習に取り組むことにつながると考える。

肢体不自由特別支援学校においてキャリア教育を推進していくためには、児童生徒の的確な実態把握、本人及び保護者のニーズの把握、障害特性の理解（専門的知識の修得）が重要である。

5 肢体不自由特別支援学校の教育課程

肢体不自由特別支援学校における教育課程は、「準ずる教育」「知的障害特別支援学校教育代替」「自立活動を主とした指導」という大きく分けて 3 種類の教育課程が編成されている。「準ずる教育」は、小学校、中学校及び高等学校の各教科等の内容及び自立活動等の内容によって編成されているが、障害の状態により児童・生徒が属する当該学年の教科の学習が困難な場合、各教科の目標・内容の一部を取り扱わないこととしたり、当該学年より下の学年（学部）の目標・内容により編成したりすることができる。また、「知的障害特別支援学校教育代替」は、児童生徒の実態を踏まえ、知的障害特別支援学校の各教科等の目標及び内容の一部によって編成することができる。さらに「自立活動を主とした指導」では、肢体不自由の程度及び知的障害の程度がともに重度で、各教科の学習が困難なため、自立活動の内容を主として学習する方が効果的であると考えられる場合に編成することができる。

キャリア教育を推進していくためには、キャリア教育の内容をそれぞれの教育課程にどのように位置付けていくのかを検討する必要がある。本研究では、まず肢体不自由特別支援学校の基本的な教育課程である「準ずる教育課程」について研究を進めていく。

6 「キャリア発達段階・内容表」について

「キャリア発達段階・内容表」とは、小学部から高等部の各段階において、キャリア発達を促すために育成すべき能力を、児童生徒の実態などから何が課題なのか、どのような能力の育成に重点を置

くべきかを検討し、児童生徒の育てたい力に焦点を絞って作成した表のことである。児童生徒一人一人のキャリア発達を促すための基盤となる要素として、教職員が意識し共有することで、授業の改善及び学習内容の一貫性・系統性を持たせるためのツールとして期待できる。本研究では、肢体不自由特別支援学校「キャリア発達段階・内容表（準ずる教育課程版）」の作成を行う。

Ⅲ 研究の実際

1 児童生徒の実態把握及びキャリア教育に関するアンケートの実施

本校児童生徒の多様な実態に即したキャリア教育を実践するためには、各発達段階における発達課題を把握し、小学部・中学部・高等部の各段階における育てたい力について検討を行う必要がある。そこで、まず個別の教育支援計画を活用して児童生徒の教育的ニーズの把握を行った。さらに、生徒、教職員、保護者を対象としたキャリア教育に関するアンケートを実施し、児童生徒の現状や課題、高等部卒業後の生活を見据えた指導・支援内容に関する調査を行った。

(1) 児童生徒の実態把握

① 個別の教育支援計画の活用

個別の教育支援計画は、障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えの下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うことを目的として作成されたものである。本校の「準ずる教育課程」で学習している児童生徒 16 名の個別の教育支援計画を活用して、各発達段階における教育的ニーズの把握を行った。小学部低学年では「学校生活に慣れて楽しむ」、小学部高学年では「自分らしさの発揮や自分の役割を知る」、中学部では「他者との協力や主体的な行動」、高等部では「自己肯定感や卒業後の生活に必要な能力や態度」に関する内容が挙げられていた。小学部・中学部・高等部で共通している内容としては、「あいさつ・返事」「人との関わり」「基本的生活習慣の確立」「自分のことは自分で行う」「基礎学力の定着」「体調管理」等が挙げられていた。

各発達段階で挙げられた内容から児童生徒の教育的ニーズを把握し、「基礎的・汎用的能力」の各能力を考慮しながら、小学部低学年から高等部までの横のつながりを考えることで、各発達段階において育成すべき能力について検討することができた。

② 生徒対象アンケートの実施

対象:本校高等部「準ずる教育課程」で学習する生徒 6 名

ア キャリア教育アンケート「自分を振り返ってみよう！」

「基礎的・汎用的能力」に関する生徒の実態を把握することを目的に、文部科学省の「高等学校キャリア教育の手引き」（平成 23 年 11 月）を基に、アンケート「自分を振り返ってみよう！」を作成し、実施した。質問 12 項目において「いつもしている」は 4 点、「ときどきしている」は 3 点、「あまりしていない」は 2 点、「ほとんどしていない」は 1 点というように 4 段階で点数化した（図 2）。アンケートの結果、自己理解・自己管理能力の「主体的行動」の値が最も低く、次いで「自己の役割の理解」、課題対応能力の「情報の理解・選択・処理等」が低い値となった。4 能力の平均値は、「人間関係形成・社会形成能力」2.78、「自己理解・自己管理能力」2.28、「課題対応能力」2.56、「キャリアプランニング能力」2.89 となり、「自己理解・自己管理能力」と「課題対応能力」が他の 2 つの能力と比較して低い結果となった。これらの結果から「自分自身を肯定的に理解する」「自ら進んで何かに取り組もうとする」「自分の行動を適切に律し、自分のすべきことに取り組む」「自ら進んで資料や情報を収集し、必要な情報を取得選択しながら活用する」ことに課題があると考えられる。

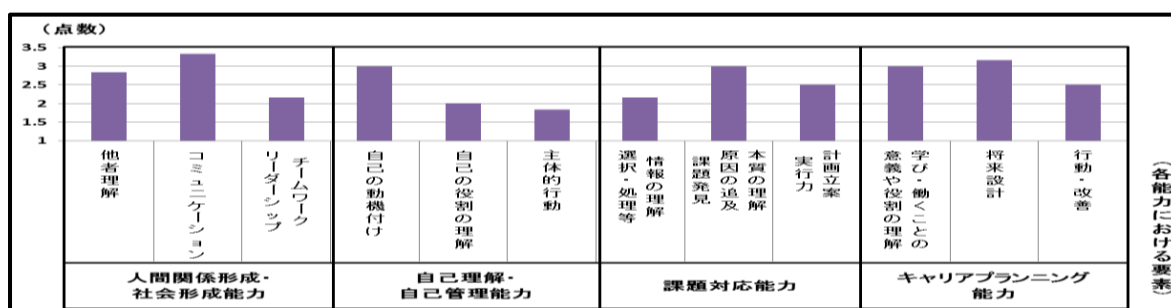


図2 キャリア教育アンケート「自分を振り返ってみよう！」の結果

イ 自尊感情測定尺度（東京都版）自己評価シート

自尊感情測定尺度（東京都版）は、学校教育に求められる自尊感情の傾向を分析し、発達段階に応じて適切に把握することができるものである。生徒が自己評価を行うことで、自分の能力や価値についてどのように考えているのかを把握するために「自己評価シート」を用いて実施した。

その結果、自尊感情の3つの観点である「A 自己評価・自己受容」「B 関係の中での自己」「C 自己主張・自己決定」の中で、「A 自己評価・自己受容」の値が最も低いという結果となった（図3）。

自尊感情の3つの観点を高めるためのポイントから考察すると、自分のよさをあまり実感することができず、自分を肯定的に認められない生徒が多いことが考えられる。

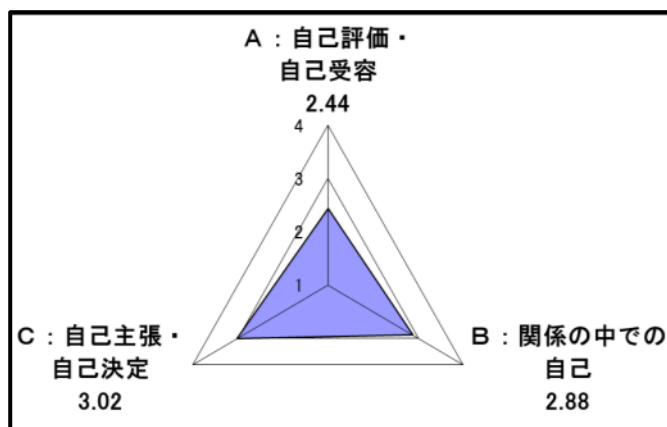


図3 自尊感情測定尺度の結果

(2) 「準ずる教育課程」担当教職員アンケートの実施

「準ずる教育課程」を担当する教職員を対象に、キャリア教育に関する理解及び気づきを促すことをねらいとして、アンケートを実施した（回答率 87% 回答数 13 名）。「普段から児童生徒の将来を見据えた指導をしていますか？」という質問に対して、「授業と将来の夢を結びつけ、そのために必要なことを確認しています」「学習する目的について常に話している」等、普段から将来を見据えた指導を行っているという回答した教職員が多かった。

「将来のために、今の段階で必要なこと、やらないといけないことは何ですか？」という質問に対しては、「基礎学力の定着」と「基本的生活習慣の確立」という回答が最も多く、次いで「自分のことは自分です」という回答が多かった。また「育てたい力や身につけてほしいことは何ですか？」という質問に対しては、「基礎学力の定着」という回答が最も多く、次いで「基本的生活習慣の確立」

「友達と仲良くする」「自己理解」という回答が多かった（表2）。以上のことから、児童生徒の将来を見据え、教育的ニーズを把握しながら教育活動を行っている教職員が多いことが分かった。しかし、「各学部の連携や系統的な指導の必要性」に関する質問に対しては、「各学部の取組があまり見えない」「大事だとは思いますが、できているかわからない」「必要だとは思いますができていない」という回答があり、連携及び系統的な指導を実感できている教職員は少なく、今後の課題だと考えられる。今回のアンケート結果から、各発達段階における「育てたい力」を検討するとともに、学部間の連携や系統的な指導体制、キャリア教育に関する共通理解の必要性を改めて確認することができた。

表2 「準ずる教育課程」担当者アンケートの結果（抜粋）

今の段階で必要なこと	身につけてほしいこと
・基礎学力の定着（5名） ・基本的生活習慣の確立（5名） ・自分のことは自分です（4名） ・あいさつ（2名） ・健康保持 ・病気のことを理解する ・情報機器の操作 ・表現活動（話す、聞く）	・基礎学力の定着（5名） ・基本的生活習慣の確立（3名） ・友達と仲良くする（3名） ・自己理解（3名） ・自主性（2名） ・自分で計画を立てる（2名） ・就労に向けた取組（2名） ・あいさつ（2名） ・思いやる気持ち（2名） ・自分の考えを伝える ・時計を見て動く ・言葉遣い、礼儀 ・進学に向けた取組 ・社会への関心

(3) 教職員及び保護者対象アンケートの実施

本県の「障がい児の保護者と支援者のための就労支援ガイド」（平成 20 年 2 月）やキャリア教育に関する先行研究で実施されたアンケート等を基に、「卒業後の充実した生活を送るために必要と思われる学習内容」「進路指導・学習を始める時期」「将来の生活の様子」についてアンケートを作成し、本校の教職員と保護者を対象に実施した。回答率は教職員が 68%（110 名に配布、回答数 75 名）で、保護者が 53%（144 世帯に配布、回答数 76 世帯）だった。

① 「卒業後の充実した生活を送るために必要と思われる学習内容」について

教職員と保護者のアンケート結果を比較してみると、上位項目（1位から11位）の中では、順位の違いはあるものの共通した項目が10項目あった。また、下位項目（40位から45位）に関してはすべての項目が共通していた。この結果から、必要と思われる学習内容に関しては、教職員と保護者の考えは概ね一致していることが分かった（表3）。アンケートの結果を、全体、学部、教育課程ごとに集約することで、それぞれの発達段階において必要と思われる学習内容について整理することができた。

表3 必要と思われる学習内容（教職員と保護者の比較）

順位	教職員	順位	保護者
1位	あいさつ・返事	1位	意思の伝達
2位	体調管理	2位	あいさつ・返事
3位	意思の伝達	3位	危険回避
4位	夢や希望をもつ	4位	体調管理
5位	困ったときの支援の頼み方	5位	着替えや身だしなみ
6位	地域の福祉・医療機関や施設の利用	5位	困ったときの支援の頼み方
7位	着替えや身だしなみ	7位	環境の変化への対応
7位	感謝・謝罪する心	8位	夢や希望をもつ
7位	好きなことや得意なことを知る	9位	好きなことや得意なことを知る
10位	危険回避	10位	排泄の自立
11位	環境の変化への対応	10位	感謝・謝罪する心
}		}	
40位	時計の読み方	40位	時計の読み方
40位	家事（調理・洗濯・掃除・アイロンがけ等）	41位	数・計算・重さ（計量）
42位	交通手段の利用（調べ方・交通ルール等も含む）	42位	仕事・作業の効率生
43位	携帯電話のマナー・電話対応	43位	交通手段の利用（調べ方・交通ルール等も含む）
44位	仕事・作業の効率生	44位	携帯電話のマナー・電話対応
45位	数・計算・重さ（計量）	45位	家事（調理・洗濯・掃除・アイロンがけ等）

② 「進路指導・学習を始める時期」について

教職員は小学部からと回答した人が70%と最も多く、中学部27%、高等部3%だった。これに対して、保護者は中学部からと回答した人が54%と最も多く、小学部28%、高等部18%だった（図4）。この結果から、教職員と保護者の間では、進路指導・学習に関する意識に違いがあることがわかった。

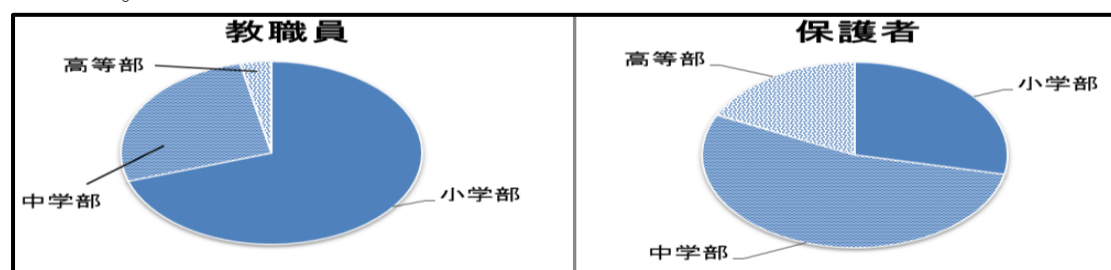


図4 進路指導・学習を始める時期

③ 「将来、どのような生活をおくってほしいですか」（記述回答・保護者のみ）について

小学部・中学部・高等部の保護者の記述から「体調管理」「健康」「楽しく」「自立した生活」「自分のことは自分で行う」「人との関わり」「感謝する心」「就労」等の共通した言葉を含む内容の意見が多かった。アンケートの内容を集約することで、「本校児童生徒の将来像」や「育てたい力」を検討することができた。また教職員からは、「担当する児童生徒の保護者の考え方を知ることができ、今後の参考になる」という意見もあった。

2 検証授業の実施

本校におけるキャリア教育の在り方及び各発達段階における「育てたい力」について検討することを目的として、キャリア教育に関するアンケートの結果を基に、総合的な学習の時間において、生徒の自尊感情・自己肯定感に関する授業を実施した。

(1) 題材：「自分と出会う（ジョハリの窓）」

(2) 題材の目標

- ① 自己評価と他者評価を通して自分を知り、自分のよさに気づく。
- ② 自己肯定感を高めることができる。

(3) 授業仮説

自己評価と他者評価を通して自分のことを知り、自分のよさに気づくことで、自己肯定感を高めることにつながるであろう。

(4) 検証授業の結果及び考察

自己の内面と向き合う不慣れな内容ということもあり、少し落ち着かない様子の生徒もいたが、多くの生徒は意欲的に取り組むことができた。授業のまとめとして、「振り返りシート」を活用して授業の振り返りを行った(図5)。生徒の感想としては「新しい自分に出会うことができた」「責任感がある、優しいと言われたことがうれしかった」「これからはもっと自分をアピールして、みんなに知ってもらいたい」等前向きで、肯定的な感想が多く見られた。また、一緒に授業を行った教職員からは「生徒が自分を見つめ直すきっかけになった」「他者からの評価で生徒も若干自信がついたように見える」「この取組を学級で継続していく必要性を感じた」などの感想があった。授業の評価に関しては、「題材と研究テーマとの関わり」「題材や目標の設定」「指導上の留意点」「環境設定」について適切であるという評価を得た。生徒や職員の感想、授業評価の結果から、キャリア教育の観点で授業を行うことの効果及び課題を確認することができた。また、「基礎的・汎用的能力」の各能力に関する高等部における「育てたい力」の観点設定につなげることができた。

自分と出会う(ジョハリの窓) 振り返りシート

今日の学習を振り返ってみよう!

名前()

1. 今日の活動は楽しかったですか?

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しなかった	楽しくない
4	3	2	1

2. 自分の知らなかった自分に出会うことができましたか?

できた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった
4	3	2	1

3. 友達のいいところを感じる(知る)ことができましたか?

できた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった
4	3	2	1

4. 「感じたこと」や「気づいたこと」を書こう!

自分は気づいていないけど、イセ人から知られているところやたくさんあって意外でした。楽しかったです。さうに自分に出会うことができたので良かったです。

図5 学習振り返りシート(生徒用)

3 キャリア教育に関する教職員研修会の実施

キャリア教育は、学校の教育活動全体で取り組むことで、そのねらいを達成することができると考える。そのためには、全教職員がキャリア教育について共通理解を図り、キャリア教育推進のために協力・協働できる組織や体制作りを行う必要がある。そこで、キャリア教育に関する教職員研修会を本校の教職員を対象に実施した。

(1) キャリア教育に関する情報提供

キャリア教育について教職員で共通理解を図ることをねらいとして、キャリア教育が求められるようになった背景、定義、育てたい能力、系統性のある指導や支援体制作り等について情報提供を行った。その中で、「キャリア教育を職業教育や職業的自立という狭義でとらえるのではなく、障害の程度に関係なく、自分らしい生き方を実現していくために必要な意欲や態度を育てる教育」という考えを提言することができた。今回の研修会を通して、教職員の意識の変容や様々な気づき等が見られた(表4)。

表4 キャリア教育に関する研修会の感想

- 「キャリア教育＝職業」と思っていたので大変勉強になりました。これからは、新たな視点をもってキャリア教育に取り組んでいきたいです。
- なんとなくですが「キャリア教育」について理解できました。定期的に研修をすることによって意識の定着化が必要だと感じました。
- 「キャリア教育」について明確にイメージを持つことができ、考えを深める事が出来ました。自分の担当する生徒にどうなってほしいかを考え、生徒が主体的に行動できるような支援を考えていきたいと思います。
- 今まであまり意識することなくすごしていたキャリア教育について、考える良い機会となりました。
- これからは、将来的に生徒がどのような人間になるのか、うまく社会に参加していくことができるのかを日々考え意識し、授業に取り組んでいきたいです。また、自分の学部だけではなく、小・中学部の職員と頻繁に連携を取ることの重要性を改めて実感した研修会でした。

(2) ワークショップ「本校児童生徒の将来像について」

キャリア教育を効果的に進めるためには、一部の教職員だけで話し合いをするのではなく、小学部・中学部・高等部・寄宿舎の教職員が十分にコミュニケーションを図りながら、課題意識を共有した上で、一緒に考えていくことが大切である。そこで、「本校児童生徒の将来像について」というテーマでワークショップを実施した。学部を交えて、一つのテーマについて話し合い、様々な意見を聞くことで、異なる視点や考え方を知ることができた(図6)。さらに、グループで協力して作業を行い、まとめたことを発表することで、教職員間のコミュニケーションや連携を図る良い機会となった(表5、図7)。各グループで考えた「本校児童生徒の将来像」(表6)は、「キャリア発達段階・内容表(準ずる教育課程版)」の「卒業後の目標」設定につなげることができた。

表5 ワークショップの感想

- 限られた時間枠内において、学部を超えて児童生徒像を協議し合えたことは意義深い体験だったと思います。
- 小・中・高の先生が一緒になって作業ができたので有意義だった。こういう機会は増やすべき。
- 小・中・高の職員を交えて本校の児童生徒像を語ることができたので視野が広がってとても楽しかった。
- 違う学部の先生たちとも意見交流できて良かったです。ぼんやりとしていた生徒像もだんだん見えてきたように思います。
- 具体的な子どもをイメージして児童生徒像を描くことで、とても積極的な意見交換ができた。
- みんなで1つのテーマを基に同じ時間を共有できてよかったです。



図6 グループワークの様子

表6 各グループで考えた児童生徒の将来像

- 環境に適応しつつ、自らも環境に働きかけることができる児童生徒
- 健康で、人との関わりを楽しめる児童生徒
- 健康で、主体的に社会や人とのつながりをもちながら、余暇も充実させられるような児童生徒
- 健康・安全に気をつけ、社会参加を果たし、生活を楽しむ児童生徒
- 持ち味を最大限に発揮できる児童生徒
- 元気で、社会の一員として自分らしく生きようとする児童生徒
- 健康で自分の役割を果たせる児童生徒
- 主体的に地域に参加し、趣味を楽しむ児童生徒
- 自己実現を目指す児童生徒
- 健康で人生を楽しむことができる児童生徒



図7 発表の様子

4 「キャリア発達段階・内容表(準ずる教育課程版)」の作成及び活用について

これまでに実施した児童生徒の実態把握、キャリア教育に関するアンケート、検証授業、教職員研修会、理論研究を基に「キャリア発達段階・内容表(準ずる教育課程版)」の作成を行った(表7)。表の作成及び活用に関して、項目別に説明する。

(1) キャリア発達段階及びキャリア教育の目標

キャリア教育は、一人一人のキャリアが多様な側面を持ちながら段階的に発達していくことを理解し、児童生徒がそれぞれの発達の段階における発達課題を解決できるような取組を展開するところに特質がある。そこで、各学部におけるキャリア発達段階と発達課題を踏まえた目標の設定を行う必要がある。「高等学校キャリア教育の手引き(平成23年11月 文部科学省)」及び「沖縄県キャリア教育の推進に向けて(平成24年3月 沖縄県教育委員会)」、本校の児童生徒の実態把握を基に、各学部の「キャリア発達段階及びキャリア教育の目標」を段階的に示した。このような長期的視点から、児童生徒の発達を理解し、学部間の連携を図ることが必要である。

表 7 キャリア発達段階・内容表（準ずる教育課程版）抜粋

小学校（低学年）		小学校（高学年）	中学校	高等学校
キャリア発達段階	社会的・職業的自立にかかわる基礎形成の時期	現時的探索と暫定的選択の時期	現時的探索と暫定的選択の時期	現時的探索・試行と社会的移行準備の時期
キャリア教育の目標	○自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ○身の回りの仕事や進学、環境への関心・意欲の向上 ○夢や希望、憧れの自己のイメージの獲得 ○動労を重んじ、目標に向かって努力する態度の形成 ○運動機能を補う様々な支援への気づき	○肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ○興味、関心等に基づく職業観、進学観、動労観の形成 ○進路計画の立案と暫定的選択 ○生き方や進路に関する現時的探索 ○運動機能を補う様々な支援の活用	○自己理解の深化と自己受容 ○選択基準としての職業観、進学観の確立 ○将来設計の立案と社会的移行の準備 ○進路の現実的検討と試行的参加 ○運動機能を補う様々な支援を活用し、社会自立達成に向けた具体的な取組	
(1) キャリア発達段階及びキャリア教育の目標				
基礎的・汎用的能力		小学校（低学年）段階で育てたい力	小学校（高学年）段階で育てたい力	中学校段階で育てたい力
〈人間関係形成・社会形成能力〉～共に社会を生きるか～		あいさつ・返事	思いやりの心	協力・信頼
多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができることも、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協調して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができ	○他者の個性を理解する力 ○他者に働きかける力 ○コミュニケーション・スキル ○チームワーク ○リーダーシップ	①友達のおいところ見つける。 ②自分の考えや思いを伝えたり、人の話を聞いたりする。 ③友達と一緒に活動に参加する楽しさを知 ④集団や家族の役に立つ喜びを知る。	①他者のよさや個性を理解し、自分との差異を認めつつ受容する。 ②相手や場に応じたコミュニケーションを図る。 ③集団内における自分の役割や関係性を理解し、他者と協力・協働する。 ④社会に対して負う責任や役割を理解し、行動する。	①他者のよさや個性を理解し、自分との差異を認めつつ受容する。 ②相手や場に応じたコミュニケーションを図る。 ③集団内における自分の役割や関係性を理解し、他者と協力・協働する。 ④社会に対して負う責任や役割を理解し、行動する。
(2) 基礎的・汎用的能力の具体的内容		(3) 各発達段階で育てたい力		
配慮事項		(4) 障害特性に関する配慮事項		
①校外での授業が比較的少ないことから、社会事象等の様々な情報提供を工夫する。 ②将来のイメージが固定化しやすいことを十分配慮し、本人の興味・関心・能力に応じた情報提供を工夫する。 ③卒業生だけでなく、障害のある方の多様な社会参加の姿を校内・校外で知る機会を増やす。 ④就職、進学等の面から情報収集できるように、卒業後の多様な選択肢（就職先、進学先、労働訓練機関等）について知る機会を設ける。 ⑤同級生の児童と一緒に学習する機会を設け、多様な考え方に触れる環境を増やす。 ⑥車椅子の基本的な操作（自力走行）や安全な利用方法について学習する機会を設ける。 ⑦除斥や姿勢の重要性について知る機会を設ける。		①自分の得意分野を生かしながら意欲的に学習する習慣を身に付ける。 ②保護者の理解を図り、自立へ向けての土台作りを家庭と連携して取り組む。 ③具体的な個別の進路計画を明確にし、実現に向けた準備期間を十分確保できるようにする。 ④自らの運動機能の制限を受容した上で、自らに適した手段や技能（車椅子や情報機器の操作など）を身に付ける。 ⑤日常生活の中で、除斥や姿勢保持等を意識できるようにする。		
(5) 卒業後の目標		①公共機関や社会的資源を活用し、自立するための支援制度の内容や利用方法、申請の仕方や書類の書き方等を知り、活用能力を培う。 ②卒業後に直面する様々な課題に対応できるように、実際の場面面で経験を積み重ねながら応用力を育てる。 ③進路希望について、具体的に達成可能な進路希望に変更するなど、進路計画を修正・変更し、新たな準備ができるようにする。 ④個々が有する運動機能障害に対応した代替手段等の体得や達成状況を随時把握する。		

健康・自立・社会参加・豊かな生活

(2) 基礎的・汎用的能力の具体的内容

キャリア教育で育成すべき能力である「基礎的・汎用的能力」の具体的な内容及び要素を、各能力別に整理して示した。また、各能力がどのような能力なのかを教職員や保護者、関係機関職員等がイメージしやすいように「人間関係形成・社会形成能力」を「共に社会を生きる力」、「自己理解・自己管理能力」を「自分を知り、自分を律する力」、「課題対応能力」を「課題を見つけ、解決する力」、「キャリアプランニング能力」を「将来について考え、行動する力」として設定した。

(3) 各発達段階で育てたい力

個別の教育支援計画やキャリア教育に関するアンケートから児童生徒の現状や課題、教育的ニーズの把握を行い、先行研究を参考にしながら、本校児童生徒における「各発達段階において育てたい力」を設定した。「キャリア教育の目標」及び「基礎的・汎用的能力」の各能力に基づいて、各発達段階における観点を配列した。児童生徒のキャリア発達の支援に結びつく指導を行うために、指導計画やねらい、学習方法や内容の具体化を図るための要点となると考える。各観点は系列として横につながりがあり、学部が進むにつれて替わるのではなく、積み上がっていくものとして考えたものである。また、小学部から高等部に至るまで常に意識する必要がある重要な内容として「あいさつ・返事」「思いやりの心」等を帯状で示した。児童生徒の実態によって、各発達段階での観点的内容を扱うことが難しい場合は、その前段階の内容を取り扱うことも考えられる。

(4) 障害特性に関する配慮事項

肢体不自由特別支援学校において児童生徒のキャリア発達を支援する教育を行う場合には、障害特性の理解が必要不可欠である。保護者や関係機関とも連携を図りながら、障害特性に関する配慮事項を意識し、「各発達段階で育てたい力」の観点を基に授業を計画し実践する必要がある。そうすることで、児童生徒にとってより充実した活動を行うことができ、意欲的に学習に取り組むことにつながると考える。

(5) 卒業後の目標

保護者アンケートの結果や教職員研修会で検討した「本校児童生徒の将来像」等を参考に、「健康」「自立」「社会参加」「豊かな生活」を卒業後の目標として設定した。児童生徒の卒業後の生活が充実したものになるように、教職員や保護者、関係機関が協力しながら、常にこの目標を意識した取組やそのための指導や支援を行う必要があると考える。

5 研究仮説の検証

個別の教育支援計画の活用、キャリア教育に関するアンケートの結果及び考察から、児童生徒の現状や課題、教育的ニーズの把握を行うことで、各発達段階における発達課題を明らかにすることができた。また、キャリア教育教職員研修会を計画し、キャリア教育に関する情報提供及びワークショップを実施することで、小学部・中学部・高等部・寄宿舎の教職員でキャリア教育について共通理解を図り、本校児童生徒の将来像についても様々な視点から検討することができた。これらの取組や理論研究から、本校の児童生徒の実態に応じた「キャリア発達段階・内容表（準ずる教育課程版）」を作成することで、各発達段階に応じた指導や支援の内容を明確にすることができた。今後は、「準ずる教育課程」担当教職員に実際に活用してもらいながら修正及び改善を行っていく。教職員が「キャリア発達段階・内容表」を活用し、一貫性・系統性を意識しながら指導計画を立て、学習内容を検討し授業実践を行うことで、児童生徒の将来を見据えた学習につながると考える。

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 「キャリア発達段階・内容表（準ずる教育課程版）」を作成することができた。また、その過程において、障害特性を理解し、各発達段階における発達課題について整理することが、肢体不自由特別支援学校においてキャリア教育を実践していくために重要であることがわかった。
- (2) 教職員でキャリア教育に関する共通理解を図り、一貫性・系統性のある指導や支援の必要性を再確認することができた。また、小学部・中学部・高等部・寄宿舎の教職員が、「本校児童生徒の将来像」について一緒に話し合うことでコミュニケーションを図り、連携を深めることができた。
- (3) キャリア教育に関するアンケートを実施することで、本校の児童生徒に必要な学習内容や育てたい力について、教育課程ごとに整理することができた。

2 課題

- (1) 「キャリア発達段階・内容表（準ずる教育課程版）」の活用及び改善を行う。
- (2) その他の教育課程に応じた「キャリア発達段階・内容表」を作成する。
- (3) キャリア教育を教育課程へ位置付けて、学校教育全体で実施するためにキャリア教育全体計画を作成する。

〈参考文献〉

- 東京都立光明特別支援学校 2013 研究報告書
- 沖縄県立美咲特別支援学校 2013 平成 23・24 年度沖縄県教育委員会指定研究成果最終報告書
- 愛知県総合教育センター 2013 『発達の段階に応じたキャリア教育の在り方に関する研究－「人間関係形成・社会形成能力」「キャリアプランニング能力」の育成を通して－』 『研究紀要』 102 集
- 沖縄県教育委員会 2012 沖縄県キャリア教育の推進に向けて
- 東京都立墨東特別支援学校 2012 実践・研究のあゆみ第 22 号
- 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会 2012 障害の重い子どもの指導 Q&A ジアース教育新社
- 菊地一文 2012 『特別支援教育充実のためのキャリア教育ケースブック』 ジアース教育新社
- 上岡一世 2012 知的障害教育転換への視点－「子どもが変わる」から「指導者が変わる」へー 明治図書
- 埼玉大学教育学部附属特別支援学校 2012 研究集録第 40 号 『知的障害のある児童生徒へのキャリア教育の在り方を探る－児童生徒の「自己実現」を目指す取り組み（3 年次）－』
- 文部科学省 2011 『高等学校キャリア教育の手引き』
- 東京都教育委員会 2011 『肢体不自由特別支援学校におけるキャリア教育の充実』
- 全国特別支援学校知的障害教育校長会 2010 特別支援教育のためのキャリア教育の手引き ジアース教育新社
- 文部科学省 2009 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部・高等部）
- 文部科学省 2009 特別支援学校 教育要領・学習指導要領
- 沖縄県 2008 障がい児の保護者と支援者のための就労支援ガイド～障がい児の「将来働きたい」を応援する～
- 諸富祥彦 2007 『7つの力」を育てるキャリア教育』 図書文化社

〈参考 URL〉

- 文部科学省 2011 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1312379.htm (2013. 4. 5)
- 東京都教職員研修センター 2013 「平成 24 年度東京教職員研修センター研究紀要（第 12 号）等」
<http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/09seika/index.html> (2013. 5. 21 アクセス)
- 愛知県教育委員会 キャリア教育の手引き「小中学校 9 年間を見通したキャリア教育」
<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/gimukyoiku/career23/00index.html> (2013. 5. 22 アクセス)
- 福岡県教育センター 平成 20 年度 児童生徒の学びをつくり出すキャリア教育の進め方Ⅰ
- 福岡県教育センター 平成 21 年度 児童生徒の学びをつくり出すキャリア教育の進め方Ⅱ
<http://www.educ.pref.fukuoka.jp/Default1.aspx> (2013. 5. 22 アクセス)
- 国立特別支援教育総合研究所 平成 23 年度 肢体不自由のある児童生徒に対する言語活動を中心とした表現する力を育む指導に関する研究－教科学習の充実をめざして－
<http://www.nise.go.jp/cms/keywords/1-.kwstring.8.html> (2013. 5. 29 アクセス)
- 大阪府教育委員会 2012 大阪キャリア教育プログラム キャリア教育の進め方サポートブック
<https://www.pref.osaka.jp/jidoseitoshien/kyaria/index.html> (2013. 6. 25)